

日本語教育の必要性

(二)

現在の伯國法令から云へば、外國語を上ばしむるには、十四才以上か、又はダルフボを卒へた者でなければ、教授する事が出来ない事になつてゐるから、之を改めない限り、今直ぐに之を何うすることも出来得ない。

然し、伯國の新憲法から云へば、正義人道の上から人種平等を探り入れ、共存共榮を理念として規定されているのであるから、教育問題も北米の如く、一面國民義務教育を強制するの傍ら外國語の教育も自由たらしく、左様で遠ざかではあるまい。

現に、マット・グロツコ州では、州の意思にて日本語の教育を許したとの新聞記事があり、又最近では北ラノナ州でも日本語の教授差問へなしとの記事が新聞に見られたから、本社は其の内容の奈何を取調べ中ではあるが、兎に角國でも北米のそれの如く、教育を成る程度まで自由にして外國の知識を取り入れ、文化を高める生活を向上せしめんと努めつゝあるは、事實と見て可なりである。

歴史上から見れば、羅甸系の民族は、アングロサクソニ系の民族に比し、教育

も、其の住民中伊太利人が多くを占めてゐるが、財界にはマダラの如き巨頭を出しても、未だ教育方面に肯かれる。即ち伯國に於てはるのを見ない。

日本人は未だ大學式な學校建設するまでには到らぬが、小學程度の教育には可なりと多くの犠牲を拂ひ、集落地の在り、第二次世界大戦の如きに押され、折角建設せる校舎も、養成せる教師も、殆ど全く用を爲さざるに至つたは、伯國發展の第一主義から起つたナショナリズムに抑壓され、折角建設せる校舎も、養成せる教師も、殆ど全く用を爲さざるに至つたは、伯國發展の第一主義から起つたナショナリズムに抑壓され、折角建設

せざる。

併し是れも一時、永遠の畏き流れの上から見れば、敢て悲しむべきことでもなく、第二次世界大戦の結果が大勢に大変革をなし、國家至上主義退場の民主主義の手になるものである、且つ小農家では朝から晩まで登場となつたのであるから

是れから先き伯國も前と變つて、リバーリズムの世界に進展して、教育問題も或る程度の自由化が認められての、日本語の教育も公認される事とはならうが、只だそれが一日も猶豫すべからざる性質のも

ある。

は、十四才以上か、又はダルフボを卒へた者でなければ、教授する事が出来ない事になつてゐるから、之を改めない限り、今直ぐに之を何うすることも出来得ない。

然し、伯國の新憲法から云へば、正義人道の上から人種平等を探り入れ、共存共榮を理念として規定されているのであるから、教育問題も北米の如く、一面國民義務教育を強制するの傍ら外國語の教育も自由たらしく、左様で遠ざかではあるまい。

現に、マット・グロツコ州では、州の意思にて日本語の教育を許したとの新聞

記事があり、又最近では北ラノナ州でも日本語の教授差問へなしとの記事が新聞に見られたから、本社は其の内容の奈何を取調べ中ではあるが、兎に角國でも北米のそれの如く、教育を成る程度まで自由にして外國の知識を取り入れ、文化を高める生活を向上せしめんと努めつゝあるは、事實と見て可なりである。

歴史上から見れば、羅甸系の民族は、アングロサク

ソニ系の民族に比し、教育

も、其の住民中伊太利人が多くを占めてゐるが、財界にはマダラの如き巨頭を出しても、未だ教育方面に肯かれる。即ち伯國に於てはるのを見ない。

日本人は未だ大學式な學校建設するまでには到らぬが、小學程度の教育には可なりと多くの犠牲を拂ひ、集落地の在り、第二次世界大戦の如きに押され、折角建設せざる。

併し是れも一時、永遠の畏き流れの上から見れば、敢て悲しむべきことでもなく、第二次世界大戦の結果が大勢に大変革をなし、國家至上主義退場の民主主義の手になるものである、且つ小農家では朝から晩まで登場となつたのであるから

是れから先き伯國も前と變

つて、リバーリズムの世界

に就て非常に興味を感じてゐる者で御座いますが

その「アラカンガ樹」

の種子は何處にて販賣し

て居るでせうか又はそれを

其處より選出せる代表者を

お聞かせ下さい。

要するに大勢は、此処伯

國に於ても自由が謳歌され

て居るでせうか又はそれを

お聞かせ下さい。

NOTÍCIAS DO BRASIL

Fundado em 1917

Diretor-Interino: SEISAKU KUROISHI

Assinaturas:
Anual Cr\$ 240,00
Semestral 120,00
Trimestral 60,00
Exemplar 2,00

ANO XXXI

SÃO PAULO, 19 DE MARÇO DE 1948

Circula às Segundas, Quartas e Sextas — N.º 2.700

「手裏ばかりが質つたんぢやねえ、一人で左様ガブカバらす、少と此方へ廻せ」
「何だつて意氣年増の心入れだ」
「體誰なんぢらう其の女は、氣になるちやねか」
「可いさ、いつれ二丁町か言ふんだらう」
「かう言ふ時でなきや、飲めやしねえ」……どうで規分は遅いんだ」

瞬く間に三升壺を倒したと思ふと、やがての事に、一人側へ倒れ、見る見留番の乾分遷は、河岸へ揚つた筋のやう。春の夜の渾みの中に、寺小屋人が書いた大字其の儘、高野をかいして、乱次なく寢てしまつた。平常一升位呷つて呑みさへも、前後不覺に正體を失ひ、夢路を照す燈りのやうに、鼻から提灯を出すもあれば口からあぶくを吹くのもある。

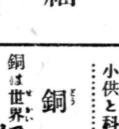
下の騒ぎを聞きながら、お絹は無法の縫い折檻と幾々喧嘩に負ひた八つ當りとは言ひながら、物の道に激昂しつゝ身内の痛みを耐へ忍んだ。何の罪科も無し妻を耐つて叩いてしり、腰に有渡屋に恩も爲だと云ふか。妻に有渡屋に恩も爲し、夫が離れて居るのに、夫をも思はずに自分が口惜し腹の立つまゝに、理由の無い無法の折檻身内が離れ上りて、骨肉が離かれると、口

せつゝ、お絹は口惜し泣き

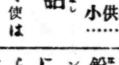
幕末秘史



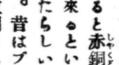
生活と幸福



小供と科学



銅のお話



(ブロンズ)が出来、銅と鉛と混る赤銅(ラット)が出来、といったふう

に色々あたらしいカネが作

られます。昔はブランで

は一九四〇年に一万五千キ

ロも出ました。専門家の話

はまだしたが現在では工業が

発達したて進むでひつ

ぱりだこのようになつて、

ブランで銅がなく

ちようほうがられま

ん出したて現在では工業が

まだしたが現在では工業が

まだした